

事業事前評価表

国際協力機構東南アジア大洋州部東南アジア第二課

1. 案件名（国名）

国名：ラオス人民民主共和国

案件名：セタティラート病院及びチャンパサック県病院整備計画（The Project for the Improvement of Setthathirath Hospital and Champasak Provincial Hospital）

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの現状と課題

ラオス人民民主共和国（以下、「ラオス」という。）は、人間開発指数が188カ国中138位（UNDP Human Development Report 2016）と、東南アジアで最も保健セクターの開発が遅れた国の一つである。特に保健医療施設では、保健医療サービスの提供に必要な機材の劣化、人材不足が大きな課題であり、保健システムが依然脆弱な状況にある。当国政府は、「第8次保健セクター開発計画（2016-2020）」において、保健医療サービスの改善を優先分野と定めている。加えて保健省がユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）達成を目標とする「2025年までの保健セクター改革戦略とフレームワーク」の実施を推進し、唯一の医師養成機関である保健科学大学の定員増加、看護師教育課程のカリキュラム改訂等による、保健人材の改善を目指した取り組みを進めている。

(2) 当該国における保健セクターの開発政策における本事業の位置づけ及び必要性

「セタティラート病院及びチャンパサック県病院整備計画」（以下、「本事業」という。）の対象病院のうち、セタティラート病院は、無償資金協力「新セタティラート病院建設計画」（1999年）により整備されたものであり、近年、同病院の外来患者数の増加が著しい。しかし、外来者数の増加に対応した適切な医療サービスを提供するための施設が整っていない上、医療機材の経年劣化も著しく、本来行われるべき診断・治療を十分に提供することができていない。また、実習先医療機関として医師・看護師学生、県病院や郡病院の職員へ教育機会を提供するための施設や医療機材が不足し、適切かつ効果的な臨床実習を提供する環境が維持されていない。もう一方のチャンパサック県病院は、依然として保健指標が低い当国南部地域の拠点病院であり、近年救急搬送が増え、更に手術件数の増加、またその内容も高度化しているが、機材の劣化により地域の医療ニーズの変化に対応できていない。加えて、当該県の現任教育の指導的役割を担っているが、機材の不足から効果的な臨床実習環境の提供が困難となっている。本事業はセタティラート病院及びチャンパサック県病院を整備することで、これらサービスの提供体制の脆弱性や臨床実習に係る課題解決を図ろうとするものであり、「第8次保健セクター開発計画（2016-2020）」を推進するものとして位置付けられている。

(3) 保健セクターに対する我が国及びJICAの援助方針と実績

対ラオスJICA国別分析ペーパー（2015年3月）において「保健医療サービスの改善」は主要開発課題であり、2025年までのUHC達成への貢献をめざし、中央と南部地域を結びながらハード・ソフトを有機的に組み合わせた支援が必要であると分析している。また、「保健医療サービスの改善」は対ラオス国別援助方針（2012年4月）の重点分野にも定められ、本事業はこれら分析、方針に合致する。

関連する過去の JICA 事業：技術協力「セタティラート大学病院医学教育機能強化プロジェクト」（2007 年～2010 年）、技術協力「母子保健人材開発プロジェクト」（2012 年～2016 年）、技術協力「保健医療サービスの質改善プロジェクト」（2016 年～2021 年）では、サービスの質を確保するための行政機能強化や、医療従事者の知識・技術向上を行い、「南部地域保健サービスネットワーク強化計画」（2012 年）では、そのために必要な施設や機材を提供した。

(4) 他の援助機関の対応

世界保健機関は中央レベルでの調整機能や開発計画策定を支援している。ルクセンブルグ開発援助庁が県レベルでの看護師等の技術向上支援、世界銀行がリプロダクティブ・ヘルス、母子保健及び栄養に係るサービスの向上、アジア開発銀行はガバナンスやサービスデリバリー、行政マネジメント強化のためのプロジェクトを実施している。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、セタティラート病院施設と、同病院及びチャンパサック県病院の医療機材を整備することにより、保健医療サービスの提供体制の向上と卒前・卒後研修の改善を図り、以てより適切な保健サービスの提供を通じ、UHC 達成に寄与するもの。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名：ビエンチャン特別市（人口：約 80 万人）及びチャンパサック県（同：約 70 万人）

(3) 事業概要

1) 施設、機材等の内容

【施設】（セタティラート病院のみ）

(a) 新棟 3,756.34 m²の建設

1 階：救急部門、画像診断部門、小児科、内科、神経科、循環器科等の外来診療部門、事務・管理部門

2 階：歯科、眼科、耳鼻咽喉科、呼吸器科、胃腸科、血液・腫瘍科、再診外科、アレルギー科等の外来診療部門、事務・管理部門

(b) 既存棟内における手術室（1 室、113.5 m²）の増設及びそれに伴う壁の改修

【機材】

(a) セタティラート病院

新棟の医療機材（CT、超音波診断装置、X 線撮影装置、マンモグラフィー、内視鏡、人工呼吸器、除細動器等）計 51 品目及び既存棟への医療機材（輸液ポンプ、オートクレーブ、手術台、麻酔器、ストレッチャー等）計 54 品目。

(b) チャンパサック県病院

医療機材（CT、X 線撮影装置、除細動器等）計 12 品目。

2) コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、施工・調達監理、医療機材の登録・管理方法に関するソフトコンポーネントを予定している。

(4) 総事業費/概算協力額総事業費：19.62 億円（概算協力額（日本側）：19.4 億円、ラオス側：0.22 億円）

(5) 事業実施スケジュール（協力期間）：2018 年 1 月～2022 年 12 月を予定（計 60 か月）。施設供用開始時（2019 年 12 月）をもって事業完成とする。

(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）：保健省

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：カテゴリ分類：C

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

2) 貧困削減促進：セタティラート病院がトゥプリファラルに位置する南部4県の貧困率は、都市部では19.8%、農村では33.9%となっており、ラオス北部（都市11.2%、農村30.1%）、中部（都市14.8%、30.8%）と比較しても高い（World Bank Report, 2016）。セタティラート病院を整備することで、南部の貧困層が受益する保健医療サービスが向上することが期待される。

3) 社会開発促進：ジェンダーの視点

病院の看護師や運営スタッフは女性が多くを占め、施設のトイレや休憩室などはジェンダーのバランスを考慮し適切な広さや仕様を確保した計画とする。

(8) 他事業、ドナー等との連携・役割分担：特になし。

(9) その他特記事項：特になし。

4. 外部条件・リスクコントロール

(1)事業実施のための前提条件：ラオス側の負担事項が遅滞なく実施される。

(2)プロジェクト全体計画達成のための外部条件：ラオス政府の関連政策が大きく変更されない。

5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1)類似案件の評価結果

カンボジア王国向け無償資金協力「バンティミエンチャイ県モンゴルボレイ病院整備計画」（2004年）の事後評価等において、調達された第三国製の医療機材について、地元業者がスペアパーツを調達できなかったため修理が困難であったとのことから、機材本体のみでなく、スペアパーツにおいても現地における調達ルートが確保されることを確認すべきとの教訓が得られている。

(2) 本事業への教訓

本事業ではこれら教訓を活かし、実施機関による人員配置、機材の維持管理の予算確保、機材のスペアパーツの調達代理店の有無等を調査し、調達ルートが確保されていることを確認した。

6. 評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1)妥当性：中央と地方における拠点病院を同時に整備することで、当国における保健サービスの質の底上げを図る本事業は、当国保健省の方針及び我が国の援助方針にも合致し、SDGs ゴール3の「健康な生活の確保、万人の福祉の促進」に貢献すると考えられるため、無償資金協力により本事業の実施を支援する妥当性は高い。

(2)有効性

1)定量的効果

指標名		基準値 (2016年実績値)	目標値(2022年) 【事業完成3年後】
外来患者数(人/年)	セタティラート病院	93,455	111,590
画像診断検査件数(件/年)	セタティラート病院	25,733	33,465
	チャンパサック県病院	28,166	31,463
手術件数(件/年)	セタティラート病院	1,699	2,029

2)定性的効果：医療従事者への卒前・卒後における臨床実習環境が改善される。

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6.(2) 1)のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

・事後評価 事業完成3年後

以 上